

# 平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 473

所管部局	農林商工部	所管課	商工観光課	担当者名	山内 里美
事業名	観光協会事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	観光協会事業			政策体系	241
会計	一般会計	科目	7.商工 - 1.商工 - 3.観光		

## 1. 事業の概要

観光地としての南丹市のレベルアップと知名度の向上を図り、観光ネットワーク体制を確立するため、市内の観光協会の運営及び事業実施を支援する。

## 2. 事業の目的と必要性

### ① 施策で目指す目標との関連付け

観光地としてのそれぞれの地域の特性を生かしたレベルアップと知名度向上につなげ、施策目標として定める「観光入込客数200万人」を目指す。

### ② 事業を実施する必要性

観光の拠点である観光協会の円滑な運営に支援を行うことにより、観光協会の事業展開、体制の整備ができるとともに、他団体とのネットワーク体制の確立により、より地域に根付いたもてなしや体験で観光客を迎えている。地域特有の事業展開となっており、現段階では各協会での運営が必要である。

## 3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	9,040	10,654	8,523	6,760	5,690	6,760	6,760
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	9,040	10,654	8,523	6,760	5,690	6,760
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.65	0.15			
人件費	千円	—	—	4,308	1,063			
事業費総額	千円	—	—	12,831	7,823			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

美山町観光協会（補助金）	3,100,000円
日吉町観光協会（補助金）	3,000,000円
八木町観光協会（補助金）	600,000円
るり溪観光協会（補助金）	60,000円

## 5. 事業結果の概要

観光協会へ支援することにより、それぞれが地域の特性を活かした事業展開を進める一助となっているものの、自主財源が限られている中で、活動が制限されてきている部分もある。限られた予算の中で、地域に根付いた協会ならではの、観光情報の提供や誘客・集客への取り組み、来訪者への応対等を行い入込客の増加につながった。

## 6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 八木		
●玉ノ井大鳥羽冒険の森整備、イベント企画及び実施	通年	冒険の森の整備をはじめ、森を会場としたイベントや森づくり活動（京都モデルフォレスト運動）の実施など、自然をいかした取組を行った。
●パラグライダー練習場事業の推進 ○イベント実施：クリスマスイベント、日本パラグライダー協会認定「京の都カップ」2010	通年 クリスマスイベント：12月20日 「京の都カップ」：3月14日～15日	コアな対象者に確実に足を向けてもらうとともに、安定した運営につなげた。またイベント開催により地元住民との交流や、全国からの大会参加者を迎えることができた。
●夏祭り魚つかみ大会の実施	8月10日	盆踊り大会にあわせて開催。市民(子ども)のイベント参加につながり、地元の賑わいにつながった。
●第4回年忘れ講演会の実施	12月12日	協会の観光事業の柱でもある「観光と環境」をテーマに主に会員が参加する中で、講師2名を迎えて実施、今後の取組への参考とした。
●第16回大堰川さくら祭りの実施	4月4日(土)	八木町のシンボルでもある大堰川河川敷でのイベントであり、フリーマーケットや出店により市内外から多くの来場者を迎えた。
●京都府観光連盟との連携及び広報活動	通年	観光情報の発信につながった。
●他団体との交流事業の推進 ○山菜狩りイベント(八木町南地区自治会とコラボ) ○秋の観光物産展(京都中部圏観光協議会主催) ○春の観光物産展(京都中部圏観光協議会等主催)	山菜狩り：5月3日・17日 秋の物産：9月23日 春の物産：2月14日～16日	コラボ事業により、新たな観光資源の発見、取組で誘客を図ったほか、観光物産展への参加により、地元の特産品のPRを積極的に行うことができた。
●視察研修の実施	6月12日	隣町である亀岡市観光協会を訪れ、HPの活用方法等について研修を深めた。
(2) 日吉		
●各種体験イベントの企画実施・共催 (畑郷ふれあい農園植付祭・収穫祭り、ひよしお芋クラブ)	6月～10月	地域ならではの農業体験を中心としたイベントを行うことにより、都市住民との交流ができた。
●おやじ塾の体験事業の実施		会員を中心に地域の素材を活かした田舎体験を通じ、都市住民との交流を図った。
・しめ縄作り体験、ひよし芋煮会	12月23日	18組27名参加
・とんど祭りと手作り燻製体験	1月17日	14組17名参加
・椎茸菌打ち体験	3月14日	32組60名参加

●ひよし夏祭り	7月19日(日)	スプリングスひよしを活用したイベントの実施により市内外からの観光客を迎えている。花火大会をメインに朝市や魚つかみ、ダム見学会、おもしろスポーツ体験などで多くの方に楽しんでもらい、地域の活性化に寄与できた。 来場者：約4,500人
●日吉町観光協会観光パンフレット改訂増刷 合併前に作成したパンフレットが無くなったため、 内容も改訂し増刷を行った。	8月～平成22年2月	京都府の観光振興交付金を活用することにより観光協会の負担を削減しながら、パンフレットを作成。PRに活用できている。
●第11回日吉町観光写真コンクール開催	受付：1月15日(金)～2月26日(金)	応募数144点。応募者数72名。入賞16点。
●他団体との連携および観光情報の発信	通年	京都府観光連盟や南丹市への観光情報の提供や観光客からの問合せへの対応。観光協会HPの更新。
<b>(3)美山</b>		
●観光協会窓口における観光案内、観光情報の発信	通年	観光案内窓口として来訪者も多く、町内の観光スポットの案内や観光関係団体への情報発信により、観光客への案内を行っている。
●イベント時の観光PR・観光物産展・観光案内の実施(芦屋さくらまつり)	4月4日・5日	これまでからのつながりの中で、PRの機会としてイベントに参加し、誘客につなげている。
●テレビ・ラジオ・雑誌・映画などのマスコミ取材対応、撮影協力	通年	年間を通して依頼のある、各種の取材等へのプランの提案や取材先の案内などにより、誘客につながっている。
●旅行会社、視察などの対応。佛大生フィールドワーク受け入れ。	通年	美山の観光への取組に対する視察対応や、旅行会社の下見の対応などにより、誘客につなげるとともに、フィールドワークの受け入れにより、美山の魅力を伝えている。
●観光の取組み紹介、観光PR	通年	美山の観光への取組に対する講師としての依頼への対応や各地での観光PRにより、美山の魅力を発信し、誘客につなげている。
●京都府観光連盟との連携及び広報活動(京都観光宣伝販売促進会議・観光パンフレットの配布など)	通年	美山町の魅力・観光情報を京都府観光連盟の事業に参加することで、京都の南丹エリアの観光の目玉としてPRを行い、誘客につなげている。
●美山町観光協会HPによる観光情報の発信	通年	最新のイベント情報や英語版の作成などにより、観光情報を必要とする多くの方への情報提供につながっている。
●第14回美しい美山の景観写真コンテスト開催	受付：2月1日(月)～2月26日(金)	応募数329点。応募者数152名。入賞20点。
●美山町内実施イベントへの参画・後援	通年	観光情報の発信とともに、マスコミなどを通じたPRができています。
●美山観光パンフレットの増刷	3月	75,000部簡易マップを作成

(4) るり溪		
●観光情報発信への協力	通年	観光情報の提供や観光パンフレットへの広告掲載などにより誘客へとつながっている。
●るり溪の環境保全活動（一部京都府委託あり）	通年	渓谷・公園の環境保全が行われることで、景観が守られイメージアップにつながっている。

## 7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

本市の観光振興の中心的な役割を担う各観光協会への運営及び事業支援補助は、「観光入込客数200万人」を目指す本市としては必要不可欠である。  
各観光協会の事業内容は、地域の特性を生かした活動内容となっているが南丹市発足5年目を迎え、広大な市域を網羅する観光ネットワーク構築の観点からも、各観光協会の合併(一元化)についての議論も必要である。また、年々削減を行っている運営支援の補助金の観点からも、各々の観光協会の存続は厳しいものと考えている。

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点  
地域の特色を生かしたイベントより、如何に入込客を増やすかを議論した。
- ②当該事業のアピール事項  
観光協会の円滑な運営により、ネットワークの確立、より地域に根付いたもてなしや体験で観光客を迎えている。
- ③反省点、今後の展開・方向性等  
市域の広い当市の場合、より広域的なネットワークの確立により、事業展開を併せて考える必要もある。